

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490800404	事業の開始年月日	平成29年12月1日	
		指定年月日	平成29年12月1日	
法人名	株式会社 ソラスト			
事業所名	グループホームソラスト富岡			
所在地	(236-0052) 神奈川県横浜市金沢区富岡西6-43-31			
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	令和3年12月27日	評価結果 市町村受理日	令和4年4月22日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームの特徴としては外出活動を主に行ってまいりましたが、2019年までは初詣や八景島でのアジサイ祭り見物、花火大会見物、地元町内会の夏祭り見物等行ってきましたが、新型コロナウイルスの影響により、2020年、2021年と大規模な外出活動を中止せざるを得ない状況となりました。その為、近隣の公園や八百屋等へ出かけるお散歩は天気の良い日は欠かさず行うようにしておりました。また近くにある地域包括支援センターで催されるコンサートなどの催しは、再開以降毎月見物させて頂いており、当ホームの外出レクには欠かせない存在となっております。四季を肌で感じて頂けるケアをこれからも続けていきたいと考えております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年1月27日	評価機関 評価決定日	令和4年3月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、京浜急行の「能見台」駅または「京急富岡」駅どちらからも歩いて15分程の住宅街にあります。道路を挟んで富岡西公園があります。建物は木造2階建てのこじんまりした建物で、1階が共有スペース、2階が居室の1ユニット型のグループホームです。

<優れている点>

事業所の理念「安心・安全・楽しい我が家、その人らしさを大切に、天気の良い日は外に出よう」は、家庭的な雰囲気の中で、その人らしく毎日が送れるケアを目指して開設2年目に職員の総意で作りました。コロナ禍により、交流の自粛や制限など厳しい状況が続く中、感染予防対策を万全にして、毎日の散歩や近くの八百屋やパン屋、スーパーへの買い物、ケアプラザ主催のミニコンサート見物などの外出も実施しています。更に将棋ボランティアや音楽療法士の来訪など積極的な支援をしています。運営推進会議は、家族の参加こそありませんが、地域包括支援センターの職員や訪問看護ステーションの看護師が出席し、活動報告や身体拘束適正化委員会の同時開催、また質疑応答など従来と変わらず実施し、事業所の運営に活かしています。

<工夫点>

食材を二つの業者から取り寄せ、入居者の味覚に合った、また栄養バランスの取れた食事を提供することが出来ています。また、事業所内の研修や勉強会に、職員が講師となり参画することにより、その効果を一層高めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームソラスト富岡
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入居者様が年々歳を重ねる中、「安全、安心」を徹底するため、医療との連携の強化を図り、またケア内容の変更も臨機応変に行うよう心掛け、その内容を申し送りノート等を使い共有化を図り実践に繋げるよう努めている。	事業所の理念「安心・安全・楽しい我が家、その人らしさを大切に、天気の良い日は外に出よう」は、開設2年目に、入居者に寄り添うサービスを目指し、スタッフ全員の考えをまとめ、作っています。今では職員に深く浸透し日々のケアの礎になっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍にある為、地域の方との交流は以前より図れていないのが現状。だが、地域ケアプラザの催し物など感染対策をしっかりと行っている場所には参加し、また近隣の八百屋には買い物に出かけるなどして、出来る限りの地域との交流は継続している。	自治会に加入していますが、コロナ禍により、以前のような相互交流は出来ていません。地域の個人ボランティアの受け入れや近隣の商店やスーパーへ出かけた時に挨拶を交わすなど、感染予防対策をしたうえで、地域との結びつきを絶やさぬよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍以前は、地域の大型スーパーなどに買い物レクに出かけると、買い物に来ていた他のお客さんが話しかけてくれたりして地域の方にその活動を自然と知って頂ける状況が作れたが、現在はそれが困難になっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在は運営推進会議の場で身体拘束適正化委員会及び高齢者虐待防止委員会を開催し、話し合ったことを日々のケアに生かしている。またご参加頂けなかったご家族様には議事録等を郵送し、その報告を行っている。	コロナ禍により、家族の出席はかきませんが2ヶ月ごとに地域包括支援センター職員や訪問看護ステーションの看護師が出席し活動状況の報告や質疑応答、情報交換などを行い、事業所の運営やサービス向上に活かしています。議事録は関係先に、都度配付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	コロナ禍ということもあり、区で開催される予定だった研修も全て中止となっており、以前より連絡する機会が減ってしまっているが、生活保護の入居者様の情報に関することは生保の入居者様が増えたこともあり、頻繁に連絡を取り合うような関係になっている。	金沢区保険福祉センターとは、介護認定の更新や事故報告、また運営推進会議議事録の提出を通じて良好な関係を築いています。特に、生活保護者の入居の増加に伴い、生活支援課とは、より連絡を取り合い関係を繋げています。金沢区グループホーム連絡会とは入居者情報の交換を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	事業所内研修の実施し、スタッフに学びの場を設けている。身体拘束適正化委員会を設け、第3者の意見も取り入れている。またスタッフ自身が自分のケアを振り返ることにより、身体拘束に当たるようなケアを行っていないか考え、ケアの時の振り返りをシートに記入し、個人面談等で管理者と論議する場を設けている。	運営推進会議で「身体拘束適正化委員会」を開催し「身体拘束適正化に関する指針」に準じて、不適切なケアの防止に取り組んでいます。また3ヶ月ごとに「振り返りシート」で職員は自分の行動を振り返り、この結果を基に管理者は職員と話し合いをしています。事業所内研修は年2回行っています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内研修の実施し、スタッフに学びの場を設けている。運営推進会議等で第3者の意見も取り入れている。またスタッフ自身が自分のケアを振り返ることにより、虐待に当たるようなケアを行っていないか考え、ケアの時の振り返りをシートに記入し、個人面談等で管理者と論議する場を設けている。	スタッフミーティングで虐待防止事例検討会を実施しています。「個人ワークシート」を使って、職員一人ひとりが当該事例の問題となる点、問題が生じた原因と背景、再発を防止するための改善策を考え、それを実践に繋げています。また虐待が認められた場合は、本部に報告し速やかな対応に努める体制となっています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修は行っているが権利擁護についてはなかなか直接的な形での支援が実感としてわからないスタッフが多かったが新たに入居された方で成年後見制度を利用し、入居に繋がった方が居られるので今後成年後見制度が必要な方に利用して頂けるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結ぶ際には必ず契約書及び重要事項説明書（料金表等も）を事前にお送りし、しっかりと目を通して頂くようお願いしております。その時点で、不明な点があれば連絡して頂くこともお願いをしております。その後再度確認を行い、契約へと進ませて頂いております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月、報告書という形でご本人の写真入りの報告書を送っており、ご本人様に何かあった場合は直ぐに連絡を入れるよう心がけており、またケアプラン作成時などは質問等はいつでも受け付けている旨をお伝えしております。そこでホームの運営やケア等に関するご意見があった場合はスタッフ会議等で話し合い、反映させるよう努めています。	コロナ禍のため、家族との面会は、玄関先で距離を取りマスク着用など、感染予防対策を徹底して、顔を合わせる程度に止まっています。今は対面で話をする機会はありませんが、電話連絡時に「何かありますか」など、こちらから働きかけ要望を聞くように心掛けています。なお入居者の日常の様子を、写真入りの報告書を作成し、毎月家族宛てに郵送しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議で意見を述べる場を設けたり、管理者と個人面談の際に意見を述べたりと、その内容を反映に繋げている。必要に応じて本部担当者とも直接連絡が取れるようになっており、相談しやすい体制づくりに努めている。	日頃のコミュニケーションを大切に、毎月のスタッフミーティングでは職員からの活発な意見も出ています。勤務時間帯が違うスタッフも申し送りノートで情報を共有しています。シフト作成は職員の要望を採り入れて臨機応変な対応を心掛けています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	いつでも相談窓口や本部スタッフに連絡が取れる体制を整えており、場合によっては本部スタッフが直接ホームまで足を運び、スタッフと個別で面談などを行い、職場環境の把握、改善に努めている。	就業規則は整備され、いつでも誰でも閲覧可能な環境となっています。健康診断は、全員対象に年1回、夜勤者は年2回実施しています。面談は年に4回行われ、その内1回(6月)は人事考課を兼ねています。また法人スタッフに職員が直接要望を伝える環境も整えています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人で用意した研修システムを利用しスキル向上に努めている。また、一昨年まで外部研修等の利用を積極的に利用してきた。また、各スタッフ事が研修の内容を学び講師として他のスタッフにフィードバックする研修も行い、スキルアップに努めている。	法人の研修システムにスキルアップ研修が組まれています。事業所内の研修は、年度研修計画を作り、スタッフミーティングで職員自ら講師となり実施しています。また「かなふくセミナー」の教材を基に職員が年2回身体拘束の勉強会の講師も努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	金沢区グループホーム連絡会を利用し今までは他のGHと交流を行ってきたが、新型コロナの影響により中止の状態が続いております。ただ、GH入居を希望差されている方及び空き情報等の情報を共有し連絡を取り合い、GH入居希望の方の入居対応に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	最初はケアから入るのではなくお互い自己紹介するなどして会話から入る。その際、コミュニケーションを多く摂ることに努め、不安や緊張を和らげるよう努める。リラックスして過ごして頂けるよう心掛ける。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	インテーク時などに何気ない会話を盛り込みながら、堅苦しくならないような雰囲気作りに努め、ご家族の不安や要望など本当の想いを引き出せる様な環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族と面談させてもらう中で実情及び要望等を把握。現在どのような支援サービスが適切なのを見極め、GH入居だけにとらわれず、在宅の継続や他施設系の利用を促すなどし、その方に本当にあったサービスを提案できるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ホーム内の家事等、その方が出来る事を積極的に行って頂いている。また、同時にスタッフと入居者様がお互い協力し合いながら行う。それにより入居者様によっては今まで聞かせてもらえなかった昔の話などをして下さるようになった。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時や電話、ご様子を伝えるお手紙などでご本人の近況をお伝えし、また助言などを頂き、ケアに繋げてい居る。また感染症対策を行い、ご家族がホームに来られた時は、距離を置くなどして、直接お顔が見られるよう工夫を行い、ご本人の状況がどのような状況なのかお伝えできるよう努めていた。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナが蔓延する前の2019年までは、個別ケアという形でその方の馴染みの場所や古い友人との関係が途切れないようその方にお会いできる支援を行ってきましたが、現在のコロナ禍に置いてはこれらの活動は出来ていません。強いてあげれば今まで何年も連絡が取れなかったご親戚と連絡が取れるようになり、面会にこぎ着けた事例が1つあります。	コロナ禍前は入居者一人ひとりの希望を聞いて馴染みや、思い出の場所を訪ねる個別ケアを行っていましたが、中止を余儀なくされています。現在は、将棋好きの入居者に将棋ボランティアの来訪や、月に3～4回音楽療法士が来訪して昔懐かしい歌や音楽を共に楽しんでいきます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士でも、性格が合う、合わないといった方が居るので、その関係性を理解し、入居者様同士が支えられるよう繋げていけるよう支援をしている。また入居者様の孤立を防ぐようスタッフは積極的に声掛けを行うよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了された方はお亡くなりなりサービスが終了された方が殆どです。それらご家族からは特には相談事がないのが現状です。もしそういったご家族様から相談事を受けた場合はきちんと支援させて頂くよう努めます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	集団生活の中では一人一人の思いや意向を把握しても、それを実践に繋げることができる物は少ないのが現状。ただ少しでも希望や意向にそった内容の物を行えるよう努めている。	日常の会話や行動から希望や意向を把握するよう努めています。また職員と入居者が一対一になる就寝前や散歩、入浴など、ゆったりとした時間に思いを聞いています。意志疎通の難しい入居者は、表情や仕草などから意向を推測し、情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これらの情報は入居前のインタビューやアセスで得られることだが、これまでの生活歴などをご本人から直接聞くことにより、ご本人の伝えたいことなどが理解出来るので、ホームに入居されてからご本人との会話などから今までの暮らしを知るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	スタッフ間の直接的な会話による情報の伝達、申し送りノートを使用しその方の気付いたところを申し送りノート、及び記録へ記載しその方の情報共有に努め、現状の把握へ繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人の希望を踏まえた上で、ご家族の希望、スタッフの意見、訪問看護師、訪問診療医、訪問歯科医の意見と様々な関係者からの意見を参考に、現在の健康状態を照らし合わせて、実現可能な介護計画を作成している。	本人や家族の意向を確認し、医療関係者、職員、ケアマネジャーと意見を出し合い作成しています。通常6ヶ月ごとに見直しを行います。状態に変化があればその都度検討し、見直しをしています。毎月ケア会議を開催し、現状の把握に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録を個別データとしてパソコンに入力し管理し、いつでも閲覧できるようにして共有している。また、ケアの変更等があった場合には申し送りノートを活用し、その情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者様が今何をしたいのか、常に理解できるようコミュニケーションに努め、外出や買い物等を通し、様々なサービスを提供するよう心掛けて入居。またご家族が来所された後等、どのようなお話をされたか尋ねることにより新たなニーズの発見等にも心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所の公園へ散歩に出かけたり、地域ケアプラザの催し物を見物したり、普段の生活とは異なる場所で普段の生活を楽しんで頂けるよう心掛けている。また地域見守りサービスに登録し、離脱自己などがあった時に地域の住民や警察に協力して頂けるよう支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療医による定期的な健康管理、診察、助言を受けている。また症状に応じ専門医の受診や相談できる体制を整えている。緊急時等でご家族が通院の付き添いが困難な場合はホームにスタッフが通院介助を行っている。	本人や家族の同意を得て、入居者全員が協力医療機関の医師をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けています。原則、皮膚科、耳鼻科など専門医の受診は家族対応ですが、緊急時に家族の付き添いが困難な場合は事業所の職員が通院介助を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の頻度で訪問看護を受けている。入居者様のその時の健康状態などのご様子、相談、助言を受けている。入居者様に体調の変化があった場合、24時間救急対応して頂き、判断を仰いだり、訪問診療医への判断要請などの対応をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ずかかりつけ医から紹介状を書いて頂くようにしていることとアセスは必ずお渡しする。退院時は担当医から紹介状、看護師からはサマリリーを頂き、その情報をかかりつけ医はもちろん、ホームスタッフ及び訪問看護師、訪問歯科医師と共有し、チームとなってその方のケアに取り組めるよう努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約している訪問診療医と訪問看護師とご家族等で話し合いを行い、どのような方針にするか決定し、その内容を全スタッフで共有し、チームとしてターミナルケアに取り組むよう心掛けている。	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」の説明をしています。重度化した場合は医師が家族に現状と今後の予測などを説明し同意を得て、医療関係者や職員が連携し、方針を共有し支援をしています。職員は外部研修に参加し職場で伝達研修をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時・事故時の対応等の研修をおこない、特にパニックを起こさぬよう落ち着いて冷静に対応できるよう訓練を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時の対応（避難訓練、消火訓練）等を行い、特にパニックをおこさぬよう落ち着いて冷静に対応できるよう訓練を行っている。ただコロナ禍であるため、地域住民の方の参加は見送っている状況である。	コロナ禍の今は、地域住民の参加は見送り、自主訓練で夜間想定火災避難訓練と日中の地震対応訓練を行っています。備蓄品は水、食料、トイレ凝固剤などを用意し、リスト化しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お一人おひとりにあった言葉、声掛けを心掛け、親しみのある丁寧な言葉で接している。排泄や入浴の際にはドアの開閉やプライバシーに留意した対応を行っている。	毎年、接遇の研修を行っています。支援が必要な時は、入居者の意思を尊重し本人の気持ちに沿った対応を心掛け、支援しています。排泄や入浴の際は羞恥心に配慮し誇りを傷つけない言葉かけをしています。職員は入居者が不快な思いをせず過ごせるよう留意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	お一人おひとりにあった言葉、声掛けを心掛け、親しみのある丁寧な言葉掛けを心掛けている。入居者様の表情や反応を見てなるべく自己決定を促し、ご本人からの返事を待つように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	お一人おひとりのペースやその日の体調に配慮しながら、ご本人の気持ちに沿うよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴前にご自身で着替える衣類を出来るだけ選んで頂き、身だしなみやおしゃれが出来るよう努めている。入浴時でない時も、ご本人からの希望があれば、上着を変えるなど、ご本人の意向を大切にしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は宅配業者から頼んでいるが、2社から選べるようにしているため、選べる選択が広がり、自ずと入居者様が苦手な食材を回避することが出来る。好みに合わせ梅干しなどを付けたりもしている。またテーブル拭きや食器拭き等は入居者様をお願いしている。	2社の宅配業者から入居者の好みの食材を細かく選んで注文しています。入居者の嚥下状態により食形態を変えて提供しています。行事食や誕生日などは入居者の希望を取り入れています。保有能力を活かし、また安全に配慮してテーブルや食器拭きもしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量は毎食事記録し、食事、水分摂取量の低下が見られた時は体調を考慮し形態や量を変え調理法にも配慮し、安全に食事が出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	各入居者様の状態に応じ、見守り、声掛け、一部介助、全介助の対応を行っている。訪問歯科医が週1回の頻度で診療を行っているので、継続的に口腔内の管理等の助言をもらい、対応している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個人個人の排泄パターン、自立度、習慣を把握し、その入居者様にあった排泄介助を行っている。身体機能の低下が見られる方でもスタッフ2人介助により、排泄介助を行っており、出来るだけトイレで排泄して頂けるよう工夫している。	トイレでの排泄を基本と考えています。日中はリハビリパンツを着用し、全員がトイレで排泄をしています。生活習慣や飲水の状態、しぐさや態度を見逃さないように、トイレ誘導をしています。立位が困難でも、羞恥心に配慮し2人介助で誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	スタッフは入居者様の日々の水分量を把握し、ラジオ体操やお散歩を日課と市し、出来るだけ体を動かすようにしている。便秘気味の方には、寒天やヨーグルトを提供したり、訪問診療医に相談し下剤を服用してもらうなどスムーズ排便が出来るよう支援している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	本人の希望を出来るだけ優先的に考え、その週、その日のタイミングに合わせて、臨機応変に対応し入浴を行うよう心掛けている。	週に2回の入浴は時間や入居者の希望に沿えるようにしています。楽しい入浴になるような言葉かけや、思い出話を聞いて職員と一対一でゆったりとした時間を過ごせるよう配慮しています。入浴剤を使用し温泉気分も味わえるよう工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中、眠そうだったり、何か辛そうにされていたり、見たいテレビ番組があったりした場合は、日中であっても自室で休んでいただいたり、ベッドに横になって頂いたり、夜間であっても灯りをつけていないと眠れないという場合はそのまま寝て頂いたりとその方の生活習慣にそった休息の仕方を尊重し支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者様の薬剤情報はファイリングされており、スタッフはいつでもそのファイルを見て確認することが出来る。また薬剤の変更などがあった場合は申し送りノートに記載し情報の共有を図っている。服薬時はスタッフのダブルチェックにより誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事が得意な方には家事を、パズルが得意な方はパズル等の趣味活動を、といった感じでその方の好きなことを行えるよう取り組んでいる。また入居者様の好きな飲み物や食べ物を提供したりと、日々楽しみを感じてもらえるよう努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩に出かける時等、入居者様の希望をお伺いし、それにそったお散歩を心掛けている。また地域ケアプラザで開催されるミニコンサートなどの普段はいけない場所にお連れするなどして支援を行っている。	コロナ禍前は初詣や花見、花火大会、ショッピングモールなどに外出していましたが、現在は近隣の散歩や公園、商店への外出支援を行っています。地域ケアプラザ主催のミニコンサートには必ず参加をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	厳禁の所持を希望される方は、ご家族又は関係者と相談しご本人が管理できる範囲で所持して頂いている。購入するものはアルコールや煙草を含めた火器罏、刃物以外の物であれば、自由に購入し、買い物を楽しんで頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	原則、ご本人が電話でご家族に連絡を取りたいと言われた場合、直ぐに連絡出来るよう心掛けている。またご家族からの電話も待たせることなく直ぐに取り次ぐよう支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホーム内の掃除は毎日行い、清潔を保つことで居心地の良い空間づくりに努めている。またテーブルを小分けにして気の合う入居者様同士がいつでも話が出来る空間づくりに努めている。	共用フロアは入居者が快適に過ごせるよう冷暖房や加湿器を設置し換気もしています。性格や相性を考え、気の合う入居者同士が交流を楽しめるように配席の工夫もしています。入居者が書いた鬼のお面などで季節を感じるよう飾っています。思い出の花見などの写真も飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビの周りにソファーや椅子を置き、好みの場所づくりや落ち着いて過ごせる空間づくりに努めている。またテーブルを小分けにすることにより入居者様同士のトラブルが内容配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室のレイアウトは自由なので、ご本人の使い慣れた物や馴染みの物でホームにお持ち頂くことが可能なものは、お持ち頂き、落ち着いて居心地よく過ごせる空間にして頂くよう、ご家族には助言を行っている。	照明、エアコン、介護ベッドを備え付けています。思い出のある使い慣れた机や家具、家族の写真、仏壇、ぬいぐるみなど、大切にしてきた品を飾り、今までの自宅の延長のような雰囲気にして、居心地よく過ごせるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	歩行が不安定な方は、その方の居室内に手すりの代わりにするようものを置き（Pトイレや安定した椅子）捕まる手がかりとし、転倒防止に努めている。		

2021年度

目標達成計画

事業所名 ソラスト富岡

作成日： 2022年4月19日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		事故報告の電話での説明がご家族に上手く伝わっていない時がある。	ご家族への事故報告（事故の様子、事故後の状態）を分かり易く伝える。	事故報告の電話対応マニュアルの作成。 事故直後は動揺して上手く事故内容を伝えることが出来ないときがあるため、慌てずゆっくりとした口調で伝えることを心がける。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月